

調査日	2008年10月27～29日 天候(晴れ)
調査地点 ID	410025 佐賀県伊万里市高瀬宇登山 1454-1
調査グレード	グレード1
林相	ヒノキ人工林(一部スギ, 下層にヒサカキ, スダジイ, ハイノキ属等)
土壌型	褐色森林土 BD
局所地形	山腹平衡斜面(東北側が特に急傾斜)
調査者	佐賀県林業試験所 山上健次, 山口修, 真崎修一, 坂井辰則 森林総合研究所 松浦陽次郎, 釣田竜也

概要 伊万里市内から北に 10km 程の平戸街道沿いの人工林で調査を行った。やや管理不足のヒノキ主体の林であるが、植栽密度が低いためか、下層植生が比較的あり(写真1)、また、プロット東側には枯死した竹がかなり存在した。プロット南側の約1割がナシ園に改変されており、炭素蓄積量調査を断念した。中心杭と地形に近い西側で作成した代表断面は、最表層を除き粘土質で堅密であり、多様なサイズの風化レキ(砂岩)が存在した(写真2)。土壌型は A0 層の状態や土壌の構造から BD 型とした。3ヶ所の炭素蓄積量調査では、傾斜や起伏の違いを反映して、A 層の厚さや B 層との境界が様々で(写真3,4)、比較的緩やかな西側の A 層が最も厚く、近傍の代表断面とも似ていることが確認できた。一方、傾斜が急な東側では A 層が薄かった(写真3)。



写真1. 林相と調査風景



写真2. 代表断面(西側)



写真3. 炭素蓄積量調査断面(東側)



写真4. 炭素蓄積量調査断面(西側)